



子どもの心を読み解くちから

園長 川嶋佳恵

1学期もあと1か月弱となりました。子供園の子どもたちは、友達関係が深まり、どの学級もその学年なりの関わりを楽しみながらも充実した遊びが展開されています。私が今この巻頭言を書いている横のテラスでは、そう組の子どもたち3人が、空き箱や段ボールの飛行機にペットボトルの蓋とストローと竹ひごを使って作ったタイヤをつけ、その前方に紐をつけて、「飛行機、飛べ〜！」と言いながら全速力で走っています。どんなに速く走っても飛ばない飛行機を見ながら「あれ〜何で飛ばないの??」「もっと速く走ったほうがいいんじゃない?」と何度も何度も繰り返しチャレンジしながら遊ぶ様子を微笑みながら見ている担任は、(もちろんこのままでは飛ばないことは分かっていますが…)「速く走っても飛ばないねえ。どうしたらいいんだろう…」と3人に寄り添いながら、「こうやったら飛び感覚もてるかな?」「作った飛行機が疾走する感覚は、本物の飛行機が滑走している感じを味わえているから途中から上る感じになるといいかも?」「走った途中からロープウェイみたいな感じで吊るといいかもしれない。」等この3人の願いを実現するために援助の方向を考えていました。この先、この遊びがどうなるか楽しみです。こんな風に友達と試行錯誤しながら、自分の思いを伝え合いながら、気持ちを合わせて遊ぶ姿は理想的な姿だと感じます。だけど、このような理想的な関わりが突然できるというわけではありません。その姿にたどり着くまでには友達との関わりの中で、気持ちが通じ合って楽しかった経験だけでなく思い通りにいかなかったり、けんかになって「もう絶対遊ばない!!」と相手に言ってしまうたり等様々な葛藤経験やそこで培われたレジリエンス(困難やストレス、逆境に直面した時に折れることなくしなやかに立ち直る「精神的回復力」や「復元力」)が根底にあるわけです。友達関係が深まりつつある今、どの学級でも楽しい関わりと同時に、喧嘩やトラブルも度々起こります。言葉が出る前に手が出てしまうというトラブルも3歳や4歳の子どもたちの間ではまだまだ見られます。もちろん怪我は無いように配慮しつつですが…子供園の職員は、こうした関わりの中で、多様な友達と関わる力ややり取りをする力、自分の思いを出すだけでなく、一緒に遊ぶ相手の思いと折り合いを付けながら遊ぶ力等を身に付けていってほしいと考えます。ここで必要になるのが、子どもの心を読み解くちからです。

保護者の皆様は、自分のお子さんの考えや思い、気持ちが分かりますか?「親なのだから、そんなの当たり前ではないか。」と思う方もいらっしゃるでしょう。保護者の方とお話をしたり、個人面談等でお子さんについての悩みを聞いたりするときに、「うちの子は、〇〇な性格なんです。」「□□ちゃんとは仲良しだけど、〇〇ちゃんとは合わないみたいなんです。」「こういうことは苦手で、絶対にやろうとしないんです。」等お子さんの特徴を細かくお話して下さる方がいらっしゃいます。一方で、「うちの子は、何を考えているかさっぱり分からないんです。」「私の性格とは正反対なので、どう対応したらよいか分かりません。」等お子さんのことを理解できないとおっしゃる方もいらっしゃいます。一見、前者の細かくお子さんの特徴を捉えていらっしゃる方は、お子さんのことをよく分かっているように見えますね。お子さんの行動やご家庭での様子、お子さんとの関わりの中からお子さんの特徴や性格を捉えていると思います。しかし、様々な場面で子どもたちが見せている表面的な姿から見える心と本当の気持ちや心は違っているかもしれません。目に見えている部分だけを見て「うちの子は、こういう子」「こんな風に思っているに違いない」と判断してしまっていることがあり、子供園の担任が捉えている姿と違っていることも多々あるのです。

上記の「□□ちゃんとは仲良しだけど、〇〇ちゃんとは合わないみたい」ということに関していうと、実際様子は、〇〇ちゃんに関わるたびに喧嘩ばかりしているのかもしれませんが。「今日も、〇〇ちゃんは、こんなことして嫌だったんだ。」とお家に帰って言うことが多いのかもしれませんが。しかし、このような幼児の背景に何があるのか、どうして嫌なのに毎日関わり合っているのか、表情や発する数少ない言葉から心を読み解くと、本当は、嫌いなのではなく〇〇ちゃんに興味があり、仲良くなりたいのに、その関わり方がうまくいってなかったり、お友達とのやり取りの中で、その時感じた嫌だった思いを保護者の方に受け止めてもらうことで解消し、安心したい気持ちだったりすることがあります。

いつも仲良しの3人組。いつも一緒に遊び、何かを決めるときも同じものを選びます。「うちの子は、〇〇ちゃんのことが大好きで、いつも一緒に楽しそう。」と思いますよね。このような友達関係の幼児ですが、本当にみんながいつも同じ気持ちでしょうか。表情や力関係、やり取りからそれぞれの幼児の心を読み解くと、一緒にいると安心でき、仲良ししていることは楽しいけれど、「〇〇ちゃんの思い通りに動くのは、嫌だな。でも、一緒に遊べないのはもっと嫌だから、我慢しよう。」と思っていることもあるのです。

私たち子供園の保育者は、そのような一人ひとりの心を読み解くことに最大限のちからを注いでいます。それは、自分の気持ちや考えを十分に言葉で表すことが難しい子どもたちが、本当の心を知ってもらえることで、自分の気持ちを肯定的に捉え、つますき乗り越え、萎縮したり、自分の気持ちを我慢したりすることなく、のびのびと自分を出しながら成長していけるように、また、表面的な解釈によって、幼児の本当の気持ちを踏みにじったり、見失ったりしないようにするためです。このような心を読み解くちからは、子供園の生活の中だけでなく、ご家庭で乳幼児のお子さんを育てていくにあたっても重要なちからだと考えます。もし、お子さんの心が見えない、分からない、自分の読み取りがあっているのかな?と感じたときには、子供園にいる子どもの心を読み解くプロである、担任や職員にご相談ください。一緒にお子さんの本当の心を読み解いていきましょう。



《今月の指導》

★3歳児 うさぎ組

虫が大好きなうさぎ組の子どもたちは、園内で育てていたカブトムシが孵ったことでカブトムシへの興味関心が高まっています。保育室内でじっくりと観察をしたり、木の積み木等を使ってカブトムシのために遊び場やお家をつくってあげたりしています。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 好きな遊びに繰り返し取り組み、自分なりに楽しさを感じる。
- 保育者や周りの幼児とふれあい、一緒に過ごすことを楽しむ。
- 着替えや身支度など自分のできることを自分でやってみようとする。

プールができる日はみんなと一緒にプールや水遊びをして、のびのびと楽しめるようにしていきます。また、水着の着替えなど自分で出来ることはやってみようとし、スモールステップで「できた!」を積み重ねていけるようにします。

★4歳児 くま組

空き箱や紙テープなど、様々な素材を組み合わせ、自分なりに工夫しながら製作して遊ぶことが楽しくなってきました。また、プール活動では、カエルやワニになって歩いたり、宝探しをしたりして、水の冷たさや気持ちよさを感じながら遊ぶことを楽しんでいます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 水に触れる夏ならではの遊びを十分に楽しむ。
- 保育者や友達と関わる中で、自分の思いを言葉で伝える。
- 栽培物の生長に関心をもち、収穫して自分たちで食べる嬉しさを感じる。

学級で栽培しているパプリカやナス・トマトの実がなってきています。学級のみinnで収穫し、食べることで、収穫する喜びを感じられるようにします。プール活動では、くま組から大きいプールでの活動となります。プール活動の約束を守りながら、のびのびと身体を動かして水と触れ合うことが出来るようにしていきます。

★5歳児 ぞう組

「ぞうぐみ遊園地」では、井の頭自然文化園遠足という共通の体験から、イメージを共有し「遊園地をつくりたい!」という共通の目的に向けて、自分の興味をもった乗り物や生き物をつくったり、お客さんと呼んだりして、みんなで「ぞうぐみ遊園地」をやり遂げた満足感を味わうことができました。また、色水遊びから幼児が疑問に思ったこと、予想したことを「実験」として試すことで、思いついたことを試したり、結果から自分なりに考えたりすることを繰り返し楽しんでいます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 自分の思いを出したり友達の思いを受け入れたりしながら、試したり工夫したりして遊ぶことを楽しむ。
- 栽培物の生長を楽しみにし、収穫したり調理したりして味わう喜びを感じる。
- 水の中で動く心地よさを感じ、自分のめあてに向かって挑戦しようとする。

遊びの中で、自分なりに工夫して楽しめるよう、子どもたちのイメージの実現ができるような材料の提案や指導の工夫をしていきます。また、夏野菜を収穫して味わう経験だけでなく、調理をすることで食への興味関心を高めていきます。プール遊びでは、ビート板やフープくぐりなど自分なりのめあてに挑戦できるようにしていきます。